

高齢者の居場所づくりについて

乾 充徳 議員

問 市内での高齢者の居場所づくりの具体的な取組と老人福祉センター「ゆたんぼ」での活動内容について

答 高齢者の『活動の場』として、「いきいき100歳体操」や「フレイル予防教室」などが、『居心地の良い場』としては、「地域ほのぼのサロン」や「いきいき100歳交流会」などが、『相談・交流できる場』としては「認知症カフェ」などがあります。また、矢田山保育園の跡地を活用した「矢田サロン会館」では、こども食堂や映画の上映などが実施され、高齢者や子育て世代の方々にとってつながりを持てる拠点になっています。また老人福祉センターも高齢者の居場所として、健康増進と教養の向上を目的に各種レクリエーションを実施しています。

公立幼稚園の課題について

鈴木 健嗣 議員

問 公立幼稚園におけるお弁当持参について、保護者負担減の観点から、給食の導入や隣接する小学校の空き教室を利用した給食の実施はできないのでしょうか。

答 市内公立幼稚園の昼食は、各自弁当を持参するため保護者の負担となっており、給食導入の要望があることは認識しております。昨年度は宅配弁当の試食等を行いました。園での保管方法や価格等の課題があり、導入を見送りました。今年度は各園代表者の意見も聞き、従来の弁当にこだわらず、おにぎり等の軽食の導入促進など、保護者負担の軽減を図っております。今後は、隣接小学校の空き教室の利用等も含め、課題等を整理し、他郡市での取組を参考にしながら調査研究を進めてまいります。

①動物愛護について②県域水道一体化について

徳野 衆 議員

問 ①地域猫に対する避妊・去勢の補助金と対象の拡大はどうか？国の補助金対象である動物シェルターや災害時のペット連れ避難拠点の設置はどうか？ルールある「エサやり」の掲載は？②県の新方針で基本合意や策定内容が崩れれば、3月の本市議決は取消しになるのか？つながり等で方針変更や再検討も市民に説明するのか？

答 ①補助金の拡充は、他市の事例を調査・研究していきます。動物シェルターや避難拠点の設置は困難です。市ホームページ掲載は、指摘いただいた内容を参考に、改めて内容を見直します。②県から新たな方針変更が示された場合には、議決の必要性について県事務局と協議します。市民の皆様には、適切な時期、方法で周知します。

①物価高騰・人手不足対策について②高齢者緊急連絡について

富野 孝之 議員

問 ①農業振興のため国に物価上昇分の追加補助等の要望活動継続を望む。外国人との共生で人手不足を補い、地元産業を活性化し若者の就労増や経済成長に繋げる為、日本語教室の充実を図るべき。シルバー人材センターの人手不足は会員への心遣いを求める。これらについて市のお考えは？②高齢者緊急連絡の内容は？

答 ①国に要望活動を行っており政策実現に期待しています。日本語教室で対応することにより外国人との共生を図ってまいります。シルバーの人手不足の作業は会員と協議して一部シフトも考えます。②65歳以上の一人暮らし高齢者等を対象に緊急時にボタン1つで通報がいく事業と緊急連絡カード等を配布する事業を実施しています。

近鉄郡山駅前のまちづくりについて

丸谷 利一 議員

問 市は、県・近鉄と三者協定を締結し、駅移設をはじめとした近鉄郡山駅周辺整備事業に着手するとのことだが、まちの賑わいや活性化につながらないと大きな資金を投入するだけの費用対効果生まれえないのではないか。また、駅前駐車場を民間事業者と連携して再整備する計画についても、JR郡山駅東のように民間リスクを危惧しているが、今後どのように進めるのか。

答 本事業では、ゆとりある駅前空間と歩車分離を図るだけでなくリノベーションまちづくりでまちの活性化にも取り組み、ハード・ソフト両面で費用対効果の最大化を目指します。駅前駐車場は民間事業者と年内に基本協定を締結し再整備手法の具体的検討を進めてまいります。

若年層の献血推進について

村田俊太郎 議員

問 厚生労働省が作成した献血教育のための冊子の活用と、献血について小中学校で学ぶ機会の現状について、今後の予定も含めてお聞かせください。

答 教科学習において献血が主題となる内容はなく、献血教育推進を目的として国が作成した冊子についても高校生向けのため、小中学校での配布や活用の予定はありません。しかし、献血への理解を推進するために、啓発ポスターへの応募や、県赤十字血液センター主催のイベントの周知を行っております。今後も子どもたちが献血や血液について学ぶことができるよう、啓発活動等を行い、献血意識の向上や理解を深める機会を設けて参ります。

・他の質問項目：加齢性難聴について